

北九州医療圏における病院選択の意思決定における要因分析

—患者はどのような要因を重視して病院を選んでいるのか？—

氏名 鈴木裕也

指導教員 松田 憲

要旨

【はじめに】

北九州医療圏（北九州市・中間市・芦屋町・遠賀町・水巻町・岡垣町）においては、全国平均と比較しても病院数が多く、医療体制は充実している。しかし、総人口の減少に伴い医療の需要と供給が逆転する地域も存在し、病院側としては経営を維持するために各地区間での競争が強くなってきている。

本研究では、北九州医療圏の在住者が病院選択の際にどのような要因を重要視しているのかを明らかにすることで、病院側は求められる、患者側は求める良い医療サービスの提供に繋げる一助となることを目的とする。

【対象・方法】

2023.9.1～2023.10までに北九州医療圏に在住の20歳以上の成人を対象に Google Form を利用した web アンケートによる横断調査を行った。アンケート項目は、病院の技術的要因・人的要因・設備・情報源・交通面を含んだ計 39 項目の内容とした。

アンケート集計は、記述統計に加えて、因子分析及び共分散構造分析を行い、北九州医療圏在住者の病院選択に対する重要項目の因子とその関係性を明らかにした。さらに、対象者の属性の違いにより病院選択における重要項目が変化するのかを調査するために、回答者を過去の受診歴の有無・医療従事者の有無・年齢層（20-30 歳代・40-50 歳代・60 歳以上）でそれぞれ群間分けをして、アンケート結果を比較検討した。

【結果】

アンケート回答には 322 例が同意し、北九州医療圏外の 14 例を除いた 308 例を解析対象とした。因子分析の結果、病院選択における重要な因子として、「評判」・「接遇」・「病院内の利便性」・「他者からの推薦と自身の経験」・「病院の専門性」・「スタッフ数と技術」・「交通の便」の 7 つの因子が挙げられ、それぞれ α 係数が 0.7 以上であった。共分散構造分析の結果、この 7 つの因子は互いに有意な正の相関関係 ($p < .01$) を持っていた。

過去の受診歴の有無では、受診歴のない人は、医療スタッフのネガティブな評判を重要視していた。医療従事者の有無では、非医療従事者は、情報源として家族からの推薦

や、かかりつけ医からの推薦をより重要視していた。年齢層ごとの違いでは、高齢層ほど客観的な情報や自身の経験を重要視しているのに対して、20-30歳代の若い年齢層は、インターネット等からの第三者情報や、医療スタッフの悪い評判を重要視していた。

【結論】

北九州医療圏の在住者における病院選択の重要項目は、「評判」・「接遇」・「病院内の利便性」・「他者からの推薦と自身の経験」・「病院の専門性」・「スタッフ数と技術」・「交通の便」の7つであり、双方の因子は互いに有意な正の相関関係にあった。

キーワード：北九州医療圏、病院選択、アンケート